

「沈黙の臓器」と呼ばれる肝臓。肝疾患はある程度進行しないと症状が現れず、放置すると肝硬変から肝臓がんに進行する恐れがある。そこで、宮崎大学医学部内科学講座消化器内科学分野准教授で、同学部附属病院肝疾患センター長の永田賢治氏に健全な肝臓を保つために気を付けたいことや、宮崎県の肝疾患の現状などについてお聞きした。



宮崎大学医学部附属病院
内科学講座消化器内科学分野 准教授
肝疾患センターセンター長

永田 賢治氏

ここまで進んだ 肝炎治療

～いつまでも健全な肝臓を保つために～

改めて肝炎とは？
罹患者数の推移と宮崎県の現状

肝炎とは、肝臓の細胞に炎症が起これば、肝細胞が破壊されていく病気です。ウイルスの感染によって肝臓が炎症を起こすウイルス性肝炎が最も多く、中でも慢性肝炎になりやすいのはB型肝炎とC型肝炎です。肝炎の治療法は主に薬物療法になりますが、新薬の登場などで治療が進んでいることもあり、B型肝炎、C型肝炎ともに患者数は減少傾向にあります。

一方、アルコール性肝炎やアルコール以外のメタボリック症候群に関連した脂肪肝は最近、増えてきています。脂肪肝の場合、確実な治療法はまだないため、食事療法や運動療法をお勧めしています。

肝臓がんについては、以前はウイルス性肝炎からの肝臓がんが多かったが、1時期はC型肝炎からの肝臓がんが6、7割を占めている時期もありました。しかし、今はかなり減っており、その代わり脂肪肝やアルコール性の肝炎からの肝臓がんが増えています。

宮崎県では、2022年の統計によると肝臓がんの死亡率が都道府県別でワースト1位(※)でした。そこが、宮崎県における肝疾患対策の一番の課題です。

肝臓は「沈黙の臓器」。適切な治療の時期を逃さないために

昨年、奈良で日本肝臓学会総会が開催されました。そこで「奈良宣言」が提唱されました。

肝機能の検査にALTという項目がありますが、その上限は30で、それを超えると肝臓に何らかの炎症や損傷のある可能性があります。そのため、健康診断などでALT値が30を超えたら放置せず、まずはかかりつけ医を受診してウイルス検査や脂肪肝の検査などを受け、もし必要があれば専門医に紹介してもらいましょうというのが「奈良宣言」の内容です。このメッセージを宮崎県の皆さんにもぜひ知っていただき、適切な治療の時期を逃さないために早めに検査を受けていただきたいと思っています。

自分の肝臓の状態を知る
検査で異常の早期発見を

肝疾患はなかなか自覚症状が出にくく、早期発見のためにはまず自分の健康状態を知ることが大切です。市町村の特定健診、あるいは職場での健診、人間ドックで検査を受け、異常があれば早めに病院を受診して、詳しく精密検査を受けていただくことが大事です。脂肪肝も放置すると肝臓がんになる可能性があることを忘れないでください。

日常生活の中では生活習慣に気を付け、食事や運動習慣など何か問題がないか、一度見直していただきたいと思っています。(談)



7月21日(日)に「みやざき肝炎セミナー2024」がイオンモール宮崎で開催され、多くの方々にご来場いただきました。

医療法人伸和会 延岡共立病院

肝疾患センター

肝臓外科 赤須 郁太郎(理事長)
肝臓内科 岩切 久芳(非常勤医師)

〒882-0037 宮崎県延岡市山月町5丁目 5679-1
TEL 0982-33-3268 FAX0982-21-5700
<https://www.nobeoka-kyoritu.or.jp/>



医療法人社団 誠友会
南部病院

理事長 八尋 克三
院長 山成 英夫
☎0985(54)5353

※国立研究開発法人国立がん研究センター HP
人口動態統計による都道府県別がん死亡データ 全がん死亡数・粗死亡率・年齢調整死亡率